

## H28地域協働研究（地域提案型・後期）

### RT-08「早池峰ユネスコ・エコパークの登録促進に関する研究」

課題提案者：早池峰フォーラム実行委員会  
研究代表者：総合政策学部 渋谷晃太郎

#### <要 旨>

本研究では、かつて世界自然遺産候補となった早池峰地域をユネスコエコパークとして登録することが可能か、その妥当性を検討するとともに、民間による理想的な登録案を検討した。また、登録に当たって障害となっている認知の低さをアンケート調査により明らかにした。ユネスコエコパークの理解度、認知度を上げるために、市民を対象としたフォーラム、写真展を開催するとともに、先進地である只見ユネスコエコパークを視察し、担当者から貴重な示唆を得た。今後は行政への働きかけをさらに進め登録の促進を図る必要がある。

#### 1 研究の概要（背景・目的等）

ユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域、以下「エコパーク」という）とは、1976（昭和51）年にユネスコが開始した制度で、ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏計画における一事業として実施されている。世界自然遺産が、顕著な普遍的価値を有する自然地域を保護・保全するのが目的であるのに対して、エコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれている。現在、エコパークの登録件数は、120ヶ国699件（2017年現在）となっており、日本の登録件数は9件である。（「志賀高原」、「白山」、「大台ヶ原・大峯山」、「屋久島」、「綾」、「只見」、「南アルプス」、「みなかみ」、祖母傾大崩）登録されるためには、登録基準のほか、生物圏保存地域の定義、3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）、ゾーニング（核心地域、緩衝地域、移行地域）の3地域の要件）等について示すとともに、生態系の豊かさが保全されているか、地域主導の活動となっているか、持続可能な資源利用や自然保護と調和のとれた取組が行われているか、将来の活動の継続を担保する組織体制や計画があるか等の要件が定められている。本研究の提案団体「早池峰フォーラム」は、5年前から早池峰地域の保全・活用をさらに進めるため、早池峰地域をエコパークにすべく研究や現地調査、啓発活動を行ってきているが、行政をはじめ地元ではエコパーク登録の地域波及効果等についての認知度が低く、具体的な運動となっていないのが現状である。本研究は、早池峰地域の自然環境、歴史文化等のさまざまな地域資源調査を基に、民間ならではの理想的な早池峰エコパーク計画案（ゾーニング案）の策定、既登録エコパークの計画内容や地域への波及効果等を調査するとともに、既登録地域との比較等を行うことによって、その妥当性を検証することにより、登録の実現を目指すことを目的としている。

#### 2 研究の内容（方法・経過等）

##### 2.1. 文献調査

早池峰地域のユネスコエコパーク登録可能性の可否を調

べるため、早池峰山及びその周辺に関する自然環境、文化、保全活動等に関する文献調査を行った。

##### 2.2. 現地調査

###### 2.2.1 早池峰フォーラム、写真展の開催

「早池峰フォーラム実行委員会」が主催し、毎年早池峰の自然保護等に関する情報交換や講師を呼んで講演会等を行なう「早池峰フォーラム」が開催されている。ここ数年は、早池峰ユネスコエコパーク登録に向けたテーマが中心となっている。2017年度については岩手県立大学が「早池峰フォーラム実行委員会」と共催で12月に早池峰フォーラムと早池峰写真展を開催した。

###### 2.2.2 只見ユネスコエコパークでの聞き取り調査

早池峰ユネスコエコパーク登録に向けた方策の参考にするため、先進登録地只見ユネスコエコパークの担当者から聞き取り調査を行った。調査は、2017年8月9日只見町ブナセンター会議室に訪問し只見町ユネスコエコパーク推進事務局の中野陽介氏から聞き取り調査を行った。

##### 2.3. アンケート調査

早池峰地域のユネスコエコパーク登録に当たっては、ユネスコエコパークの認知度が重要な要素になると考えられる。このため、早池峰登山者、行政、早池峰フォーラム参加者に以下のアンケート調査を行った。

###### 2.3.1 早池峰登山者へのアンケート

早池峰地域でのユネスコエコパークの認知度を調査するため、早池峰山に訪れた登山客にアンケート調査を行った。調査日時は、2017年6月11日、7月8日である。調査は対面による聞き取り方式とし、小田越登山口で行った。対象は下山してきた登山客170人から回答を得た。

###### 2.3.2 行政へのアンケート

早池峰地域の行政機関でのユネスコエコパークの認知度を調査するため、行政機関にアンケート調査を行った。盛岡市、花巻市、宮古市、遠野市（紫波町は未調査）の各市役所の企画担当部署の方に対応していただいた。

###### 2.3.3 早池峰フォーラム参加者へのアンケート

2017年12月9日の早池峰フォーラムの際に、フォーラムの参加者のユネスコエコパークの理解度の変化を知るために、フォーラム参加者に対して理解度アンケート調査を行った。

#### 3 これまで得られた研究の成果

##### 3.1. 設定範囲

ユネスコエコパーク設定範囲の基準は、生物圏保存地域（1. 核心地域 2. 緩衝地域 3. 移行地域）の設置目的を果たすために適度な広さであること、相互の地域が干渉しないこととされている。

早池峰山系の生態系の恵みのひとつである「水の恵み」の受益範囲が重要な要素のひとつであると考え、「尾根・水系図」（図1）を作成し、「水の恵み」の受益範囲を考察した。また、基盤としての地形、地質も重要な要素であると考えられることから「赤色立体地図」、「地質図」等も参考にして、登録範囲を検討した。

この結果、早池峰山系の水の恵みの受益範囲は、遠野市、花巻市、宮古市、盛岡市、紫波町の4市1町にまたがる範囲となった。

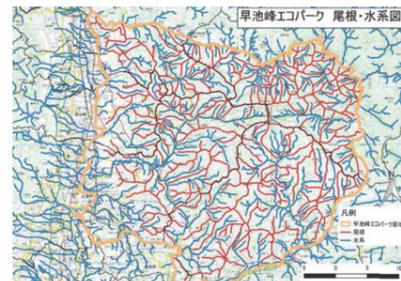


図1 尾根・水系図

##### 3.2. 早池峰ユネスコエコパークの計画案

以上を踏まえ、早池峰ユネスコエコパークの計画案を検討した（図2）。広さは全体で約140,711ha、核心地域は5,042ha、緩衝地域は3,604ha、移行地域は約132,065haとなった。核心地域は、該当する地域の中で最も広い早池峰山周辺森林生態系保護地域保存地区とした。緩衝地域は、早池峰山周辺森林生態系保存地域保全利用地区と岩手県自然環境保全地域から構成されるが、やや狭いため検討が必要であると考えられる。周辺部はすべて移行地域とした。



図2 早池峰ユネスコエコパーク計画案

##### 4.1. 早池峰フォーラムと写真展の開催

2017年12月9日に行われた早池峰フォーラムでは、横浜国立大学大学院環境情報研究院教授、日本MAB計画委員会副委員長の酒井暁子先生を講師として招聘し、早池峰ユネスコエコパーク登録の意義について講演していただいた。このフォーラムの後に「早池峰フォーラム実行委員会」は、有志を募り、「早池峰エコパーク推進民間協議会」を立ち上げ、早池峰ユネスコエコパーク登録に向けて本格的に動き始めた。

写真展では、早池峰をテーマにした写真を一般の方から募り、展示した。今回からは、ユネスコエコパークに関しての写真も募集した。

##### 4.2. 只見ユネスコエコパークでの聞き取り調査

只見町がユネスコエコパークの存在を知ったのは、2003年頃の京都大学名誉教授の河野昭一先生の講演といわれている。その後町長のイニシアチブによってユネスコエコパーク登録活動が進められた。登録のメリットは、お金が入る、建物が建つなどの直接的なメリットではなく、ユネスコによって自然環境の素晴らしさや文化が認められることが大切で、ブランド化が図られ、町の「誇り」となったことである。ユネスコエコパーク登録に向け留意すべき事項は、ユネスコエコパークの理念を理解して登録を進める必要がある、定期的にチェックされることになるので登録後の取組が重要であるとのことであった。

##### 4.3. ユネスコエコパークの認知度に関するアンケート調査結果

###### 4.3.1 早池峰登山者へのアンケート結果

早池峰山に訪れた登山客のジオパークの認知度は126人（74%）、ユネスコエコパークの認知度は54人（32%）であった。ジオパークに認知度に比べ、ユネスコエコパークの認知度はかなり低い。

###### 4.3.2 行政へのアンケート結果

行政に対しての結果は、ジオパークの認知度は6/6、ユネスコエコパークの認知度が2/6（33%）であった。ジオパークは全員が知っていたが、ユネスコエコパークは知らない人が多く、行政に関してもユネスコエコパークの認知度は低かった。

###### 4.4. 早池峰フォーラム参加者へのアンケート調査結果

早池峰フォーラムの際に、フォーラムの参加者のユネスコエコパークの理解度の変化を知るためにアンケート調査を行なった。その結果は、ユネスコエコパークの目的を理解できた人は24人（100%）、ユネスコエコパークがユネスコによる国際的な登録制度であることを理解できた人は20人（83%）、ユネスコエコパークは、豊かな生態系と生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す、地域づくりのモデルとして高く評価された地域が登録されることを理解できた人は20人（83%）、ユネスコエコパークの3つの機能を理解できた人は19人（79%）、ユネスコエコパークが3つの地域に区分されることを理解できた人は22人（92%）であった。このフォーラムに参加したことによってユネスコエコパークの理解度は上がったといえる。

#### 4 今後の具体的な展開

平成30年度に入り、より具体的に登録の促進を図るため、関係団体に呼びかけ早池峰エコパーク推進民間協議会が設置された。今後勉強会の開催、行政、議会等への働きかけを進めることとなった。これらの動きは本研究の成果の一つである。